

# 壮大な音楽プロジェクト「千住だじゃれ音楽祭」潜入リポート！ ～本番編 #2～

2014.11.19

👍 25 ツイート 0

いいね! G+

前回の記事は[コチラ](#)

本番当日を迎えた「千住だじゃれ音楽祭」。ラストは野村誠さん作曲による「千住の1010人」です。人とだじゃれと音楽はどのような融合を見せるのでしょうか？ 犬は吠え、凧が上がり、紙飛行機が飛び交うというこの曲は、どのようなフィナーレを迎えるのでしょうか？ 音楽祭の終盤をお伝えします。

## だじゃれ音楽の集大成 千住の1010人 作曲：野村誠

トリは今回の主催者である野村さんの「千住の1010人」。本番直前に、「少し、練習してみましょ」とグループリーダーが、ちくわを配ってくれました。このちくわは、笛として使います。これが、なかなか難しい。ちくわとしばらく格闘します。とりあえず、見よう見まねでちくわを吹くのですが、音は出ず。そうこうしているうちに、ちくわの匂いに誘われてつい食べてしまいました。



写真提供：アートアクセスあたら 音まち千住の囃 撮影者：KenKato

ちくわを吹いて、音を出そうと練習している風景。ちくわの押さえ方と、息の吹き入れ方がコツだそうです。

あー（「あー」と声を伸ばす）

だ（打楽器）

ち（ちくわを吹く、もしくは舌を鳴らす）

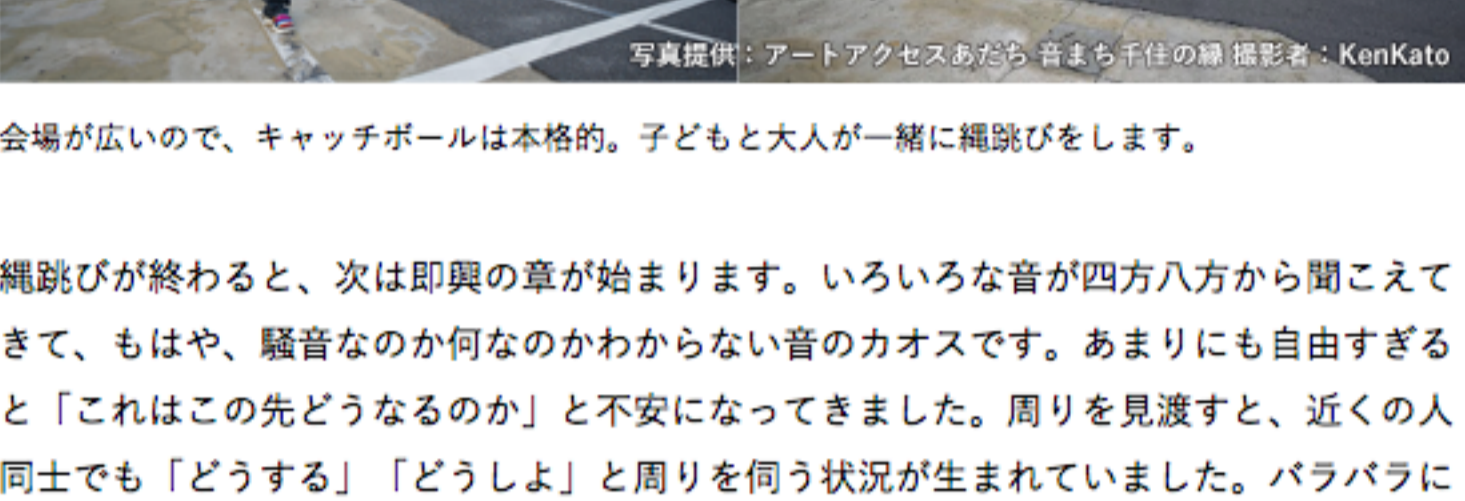
し（リコーダーなどの音階がある楽器のシを4回）

じ（自由に自分の名前を10回演奏）

よー（全員の音が鳴りやんで静かになったら「よー」の合図で一斉に楽器もしくは手拍子でポン）

音階だけでなく、音を出す回数までも網羅してくれるだじゃれの威力を再確認しながら本番がスタート。大声でだじゃれの歌詞を歌い、フライパンをたたき、リコーダーを吹きます。

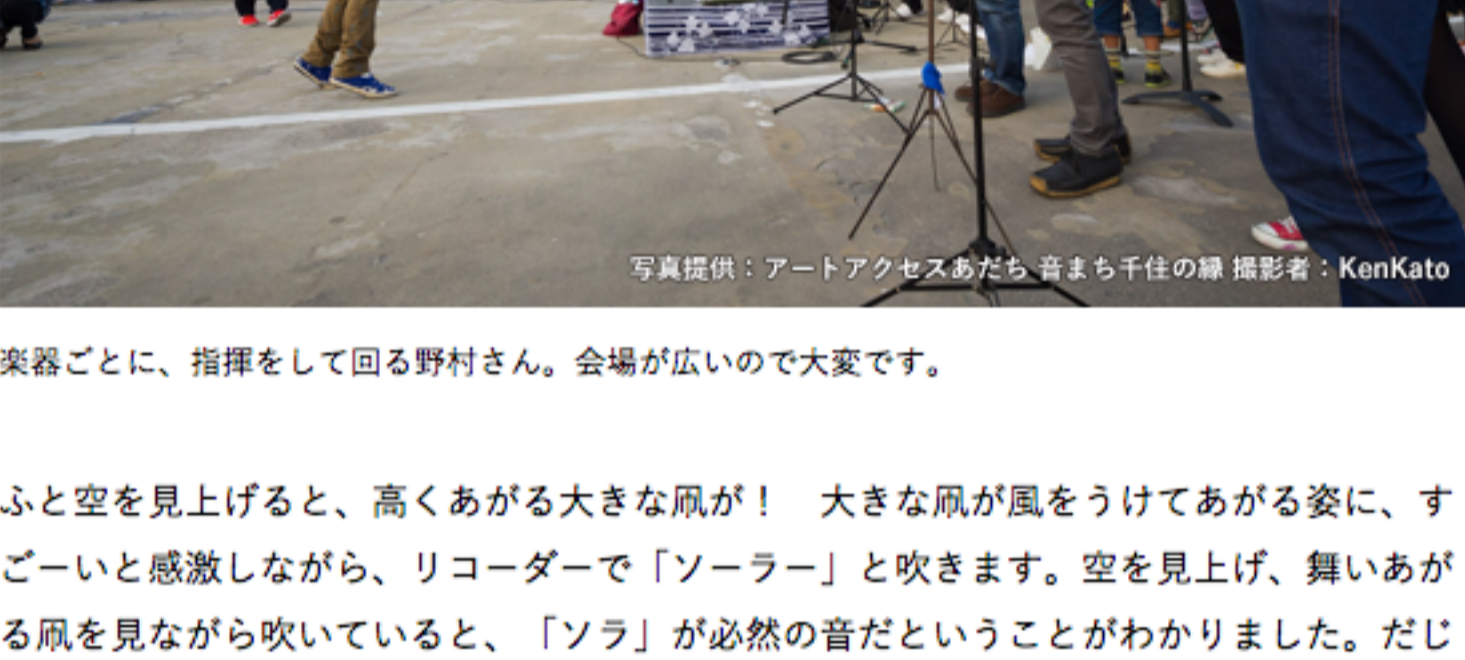
西洋楽器とタイ、インドネシアの民族楽器が幻想的な音を奏でる中、さっそうと会場中央へはちまきを巻いた青年が走ってきました！ キャッチボールの始まりです。縄跳びも登場し、会場は何でもありのハチャメチャな様相へガラリーと雰囲気が変わります。



写真提供：アートアクセスあたら 音まち千住の囃 撮影者：KenKato

会場が広いので、キャッチボールは本格的。子どもと大人と一緒に縄跳びをします。

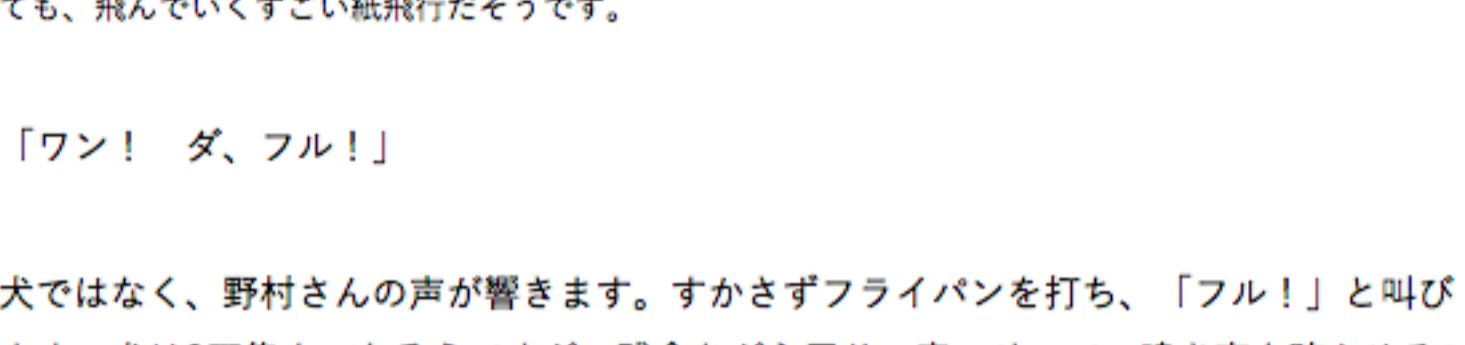
縄跳びが終わると、次は即興の章が始まります。いろいろな音が四方八方から聞こえてきて、もはや、騒音なのか何なのかわからない音のカオスです。あまりにも自由すぎると「これはこの先どうなるのか」と不安になってきました。周りを見渡すと、近くの人同士でも「どうする」「どうしょ」と周りを伺う状況が生まれていました。バラバラになりすぎると、周りと合わせたくなるのかもしれない。少しずつ協調していくと気持ち落ち着いてきます。



写真提供：アートアクセスあたら 音まち千住の囃 撮影者：KenKato

楽器ごとに、指揮をして回る野村さん。会場が広いので大変です。

ふと空を見上げると、高くあがる大きな凧が！ 大きな凧が風をうけてあがる姿に、すごーいと感激しながら、リコーダーで「ソーラー」と吹きます。空を見上げ、舞いあがる凧を見ながら吹いていると、「ソラ」が必然の音だということがわかりました。だじゃれ音楽の奥深いこと！

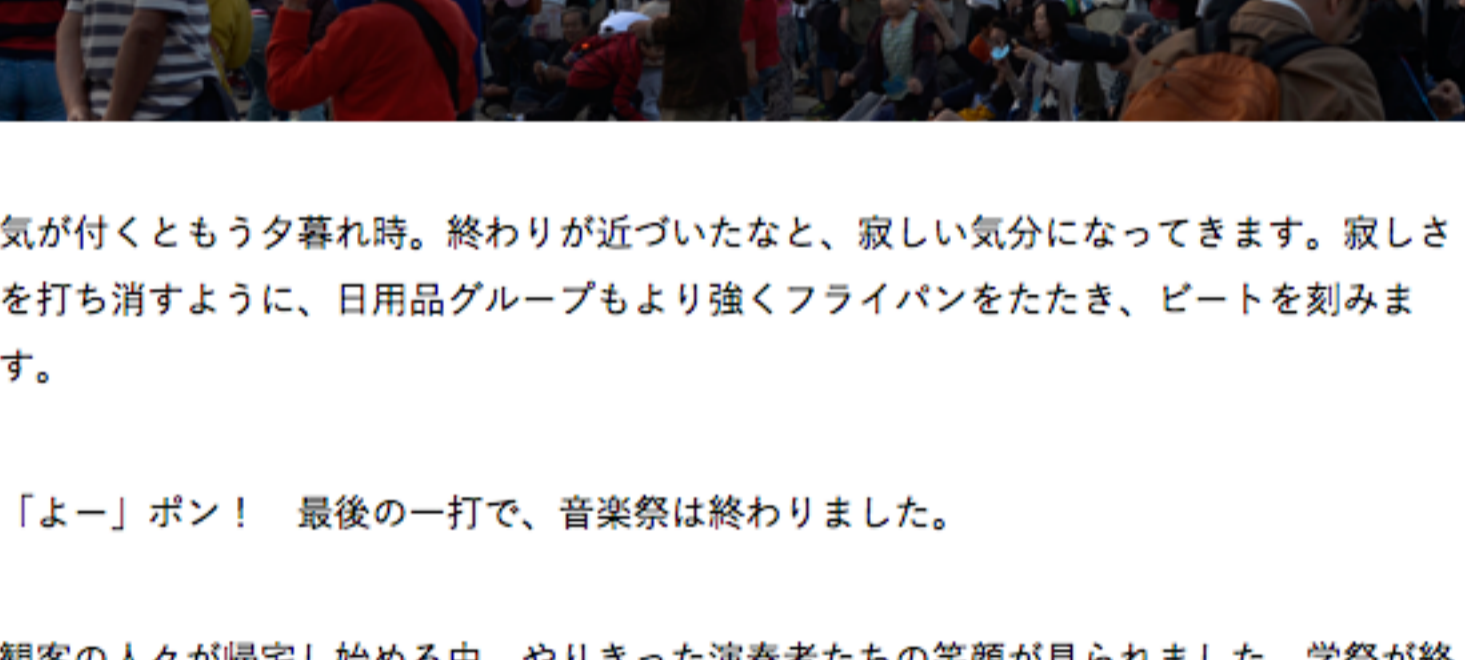


写真提供：アートアクセスあたら 音まち千住の囃 撮影者：KenKato

凧は思いがけず、カラフルな色彩です。紙飛行機は、池田邦太郎さん考案のもの。どんなふうには飛ばしても、飛んでいくすごい紙飛行機だそうです。

「ワン！ ダ、フル！」

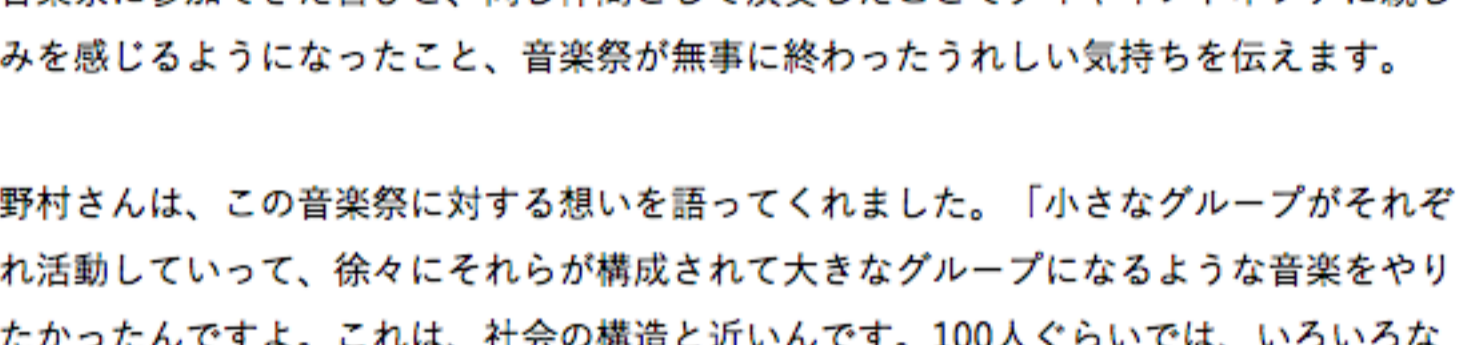
犬ではなく、野村さんの声が響きます。すかさずフライパンを打ち、「フル！」と叫びます。犬は3匹集まったそうですが、残念ながら周りの音のせいで、鳴き声を確かめることはできません。犬の分まで声を出します。「ワンダフル！」



気が付くともう夕暮れ時。終わりが近づいたのと、寂しい気分になってきます。寂しさを打ち消すように、日用品グループもより強くフライパンをたたき、ビートを刻みます。

「よー」ポン！ 最後の一打で、音楽祭は終わりました。

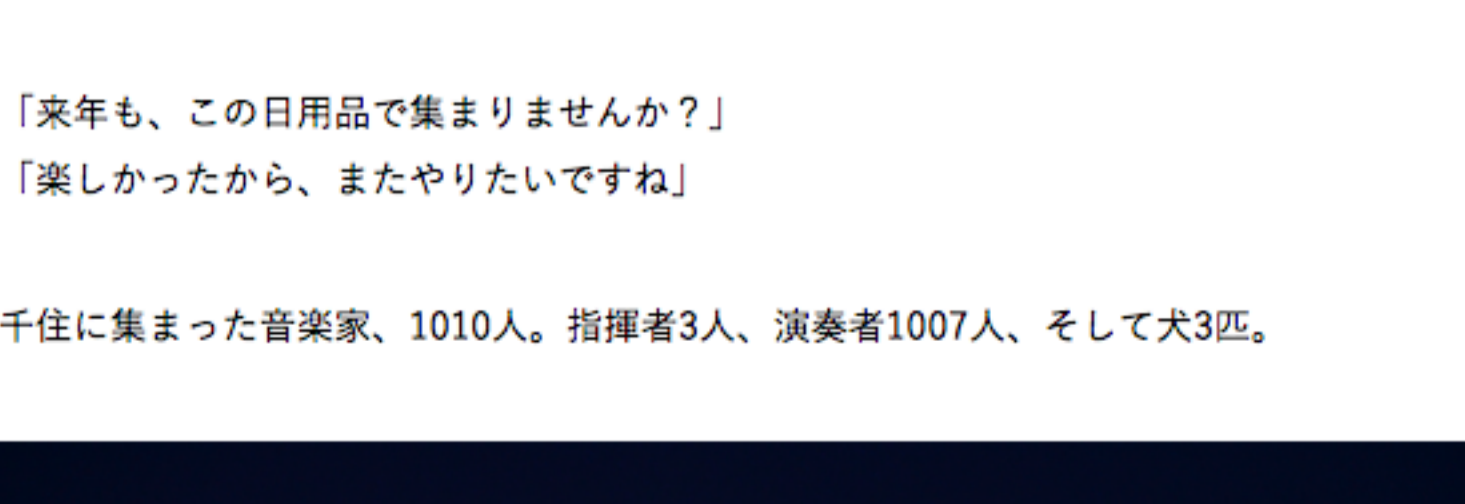
観客の人々が帰宅し始める中、やりきった演奏者たちの笑顔が見られました。学祭が終わった後のような、気持ちが高揚した後の寂しさを抱え、少し市場をうろうろしてみます。



左側は、フライパンメンバーで野村さんを囲んでの一枚です。右側は、メットさんとガンサデワメンバーとの一枚。ガンサデワは、メットさんが主宰する民族楽器バンドです。

メットさん、野村さんもとても気さくな方で、気軽にお話しできました。すばらしい音楽祭に参加できた喜びと、同じ仲間として演奏したことでタイやインドネシアに親しみを感じるようになったこと、音楽祭が無事に終わったうれしい気持ちを伝えます。

野村さんは、この音楽祭に対する想いを語ってくれました。「小さなグループがそれぞれ活動してって、徐々にそれらが構成されて大きなグループになるような音楽をやりたいんですけど、これは、社会の構造と近いんです。100人ぐらいでは、いろいろな人は集まらないですね。1010人になると、本当にいろいろな人が集まります。この機会がなければ、集まらない人、出会わない人たちがつながるような音楽祭を作りたいんです」



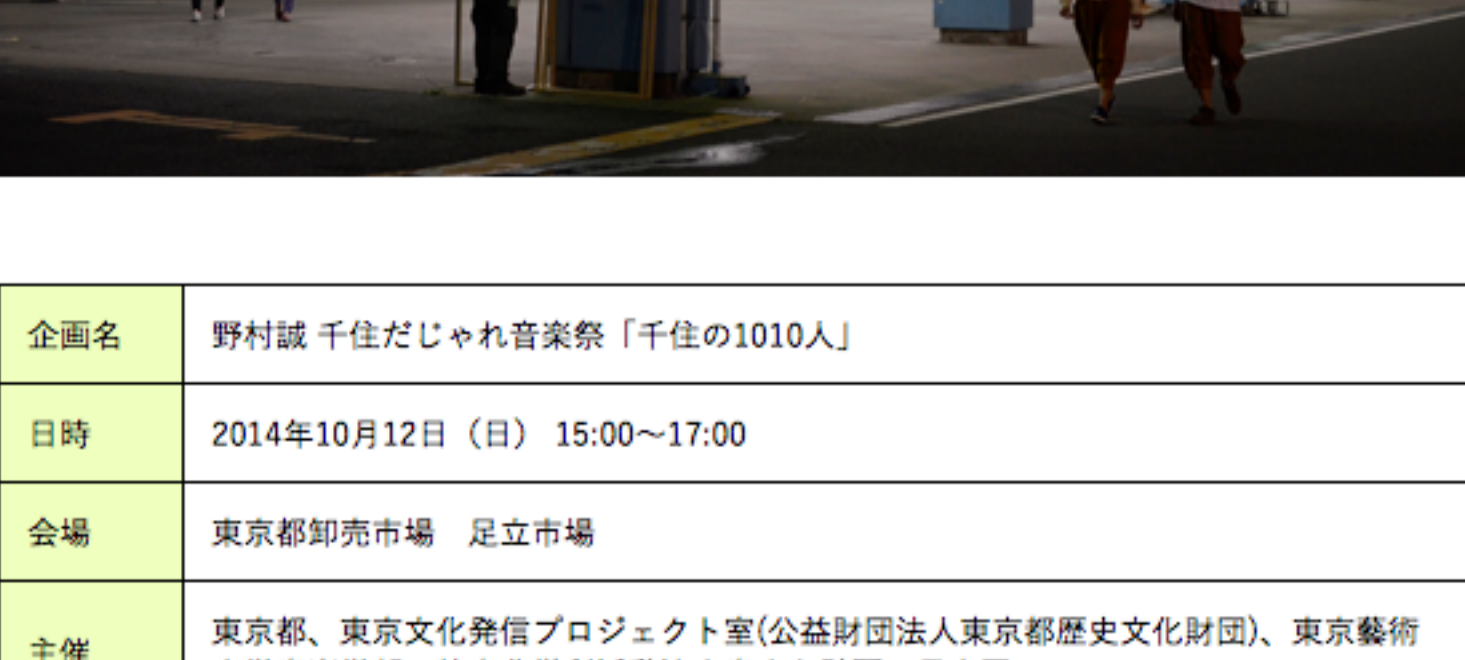
写真提供：アートアクセスあたら 音まち千住の囃 撮影者：KenKato

1010人の記念撮影。

「来年も、この日用品で集まりませんか？」

「楽しかったから、またやりたいですね」

千住に集まった音楽家、1010人。指揮者3人、演奏者1007人、そして犬3匹。



企画名	野村誠 千住だじゃれ音楽祭「千住の1010人」
日時	2014年10月12日（日） 15:00～17:00
会場	東京都卸売市場 足立市場
主催	東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、東京藝術大学音楽学部、特定非営利活動法人音まち計画、足立区
助成	国際交流基金アジアセンター
出演	野村誠、アナン・ナルコン、メット・チャイルル・スラムット、ほか1007人
URL	<a href="http://aaasenju.wix.com/senjunjo1010nin">http://aaasenju.wix.com/senjunjo1010nin</a>

👍 25 ツイート 0

いいね! G+